



みらいつうしん

12月号

2017年12月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 長南 康子



ごっこ遊び

寒さが一段と増してきました。落ち葉や木の実を拾い集める子どもたちの姿を目にすると、季節と子どもが一体となって過ごせる環境が有難く、幸せな気持ちになります。

室内では、様々なごっこ遊びが盛んです。子どもにとって〇〇ごっこは魅力が沢山詰まっている遊びです。0歳児の子ども達から、すでにその楽しさを感じています。ごっこ遊びというお店屋さんごっこなどが浮かびますが、単にお客さんがいて接客するという売り買いごっこだけの遊びではありません。0歳児が絵本の中の食べ物を見て、「パクパク、美味しいね」と食べる動作を保育者と一緒にするこも、ごっこであり、模倣する楽しさを感じることができます。現実ではないこも、想像して、受け入れることができる。その面白さを感じ繰り返し楽しむことができる。乳幼児期にはこのイメージをわかせる遊びを十分に味わうことが大事なこです。IT化が進む生活環境の中で育つ子ども達ですが、私たちは子どもの発達にふさわしい遊び環境をつくっていくことを疎かにしてはならないと強く思います。将来、他者を思いやる気持ちや自分の考えを実現する意欲などは遊び(実体験)の中でこそ育つと言えます。なぜ、乳幼児期に模倣遊びが必要なのか、それは子どもに備わっている欲求そのものであり、「おもしろい、楽しい」という気持ちからはじまったこは、子どもに安定感をもたらせ、吸収する力も高めます。

子どもの生活・遊びの大半は『ごっこ』といってもよいのではないかと思います。おうちごっこ、アイドルショーごっこ、戦いごっこは勿論、サッカーやドッジボールなども幼児にはごっこ遊びと捉えられます。ルールを守って勝負をするだけの世界はもう少し先になって真の楽しさを感じる時がきます。乳幼児期の今でこそ、子ども達が本当にしたいと思う遊びを満喫させたいものです。

今週、おこなった「みらいランド」も子ども達の憧れと夢を大いに膨らませることのできた遊びです。みらいこども園のお店屋さんごっこは、本物らしい食べ物や品物が整然と並んで、秩序立てて遊ぶが進むことを目的としていません。

幼児教育の質、保育者の専門性になりますが、子ども達の思いを実現できるように、今まで積み重ねてきた力をどのように生かしていくか。一人一人の思いと力が、友達との共同作業の中でどのように紡がれ、人と関わる力を育てていくのか、活動を通して子ども達に何を育てていくかを、十分に検討します。一つのテーマをもった遊びの中で、今、子どもの持っている力や人間関係の育ちを改めて捉えることができます。「みらいランド」を通して物や人いろいろな刺激を受けて、新たな経験をする機会にもなりました。今後の遊びや友達関係がさらに深まっていくものと考えています。

年末の忙しい時期になりますが、時々、お子さんとごっこ遊びの要素を取り入れて接していただくとよいと思います。子どもも大人も笑顔になり、きっと楽しいひと時になるでしょう。(長南)

